

第4回 トレーニングセミナー in リサール州タナイ

首都マニラではスコールの後、至る所で洪水が起きます。以前フィリピンで暮らしていました時は洪水とは無縁の地域におりましたので、マニラの洪水は衝撃的です。先日は洪水した道路で人が泳いでいる光景を目にしました。長い雨季、まだまだ様々な光景を目にするのだらうと思います。

本日は6月23日にRegion4A リサール州タナイで開催致しましたトレーニングセミナーのご報告をさせていただきます。

マニラから車で1時間半から2時間ほどのリサール州タナイ、この日行ったセミナーは山中の中にひっそりと佇むRAES (Rizal Agricultural Experiment Station) で100名程の参加者を集めての開催となりました。

周辺の町の農家、農政課担当者、そして研究所のスタッフ等に向けフィリピン安全農畜産業技術普及支援プロジェクトの概要、炭・木酢液・コンポストを使用する技術を伝えるセミナーです。研究所でも一基、木酢液抽出のための炭窯を所有しており、また周辺の農家や農政課管轄の農場でもそれに倣って木酢液を使用しているとのこと。セミナー序盤から参加者各々の質問が飛び交う展開となりました。

今回のセミナーには、ベンゲット先行地域からRickyさん、そしてイロイロでのセミナーでもゲストスピーカーを務めて下さったEvaさんにお越し頂きました。



〈説明を聞くセミナー参加者〉

ベンゲット州ラ・トリニダッド町でのSAVERS技術の取組と発展をRickyさんがお話して下さい、木酢液の有効性をピナクベットベジタブル(*1)で検証した研究結果をEvaさんが発表して下さいました。

技術の説明を紙にコピーし伝えることは容易いことかもしれませんが、実際にその技術を受け入れ実践してみようと動き出す人にとってより大きな刺激となるのは「活きた経験」だと思います。SAVERS技術で野菜栽培を続けてきたRickyさんの活きた経験や知識、そして地道な実験の繰り返しによって導きだされたEvaさんの研究結果は、参加者のモチベーションを高めたと感じています。遠い地域からでも快くセミナーへ駆けつけて下さったお二人に感謝致します。

今回のセミナーでは、野菜栽培に対する炭・木酢液の使用法に関する質問も多く寄せられましたが、それと同等に家畜に対する炭・木酢液の使用法への質問が目立ったように思います。現在、炭・木酢液技術を養豚に導入し研究をしているLipa CityのOARDC(Organic Agriculture Research and Development Center)と今後も連携しフィリピンの家畜生産現場での有効性を確固たるものにできるよう目指します。

セミナーに参加して下さいました農政課担当者のうち、3つの町の担当者の方々から木酢液抽出のための炭窯設置に関する具体的な問い合わせを受けました。積極的にフォローアップし、安全農畜

産技術普及の基盤を確実なものにしてゆきたいと思います。

(*1) ピナクベツトというフィリピンの代表的野菜料理に使用される野菜をまとめて説明する場合に用いる。ナス、カボチャ、ニガウリ、インゲンマメ、オクラ等。



〈写真左：ラ・トリニダード町の SAVERS 技術の取組と発展について説明する Ricky さん〉

〈写真右：研究結果を発表して下さった Eva さん〉